令和元年　６月分　自治医科大学附属病院　事後検証結果報告

１　開催日時　令和元年８月２６日（月）１８時００分～１９時３０分

２　場所　自治医科大学教育研究棟２階

３　検証医師　間藤教授、新庄医師

４　出席者

1. 消防機関

　小山消防１１名、芳賀消防　２３名、石橋消防６名、筑西消防１８名

1. 医療機関等

栃木県立岡本台病院　１名　　　　　新上三川病院　　　　　　１名

福田記念病院　　　　１名　　　　　県南健康福祉センター　　３名

芳賀赤十字病院　　　２名　　　　　精神保健福祉センター　　２名

協和中央病院　　　　１名　　　　　西部メディカルセンター　１名

新小山市民病院　　　１名

県医療政策課　　　　１名

５　検証症例　CPA及びロード＆ゴー　　５９件（対象症例　５件）

　　搬送困難症例　対象症例　５件

　　精神科症例　　対象症例　７件

【検証結果】

1. 交通事故により負傷した７０歳代男性、筋性防御がみられ腹腔内出血からの循環血液量減少性ショックを疑ったが、バイタルサインが安定していたためＭＣ医師に助言を受けてからショック輸液を行った症例。

自転車と中型トラックの衝突事故で、自転車運転の７０歳代の男性が頭部を負傷し、意識がないとの救急要請。車内収容後の継続観察時に筋性防御がみられ腹腔内出血を疑う。

循環血液量減少性ショックを考えるがバイタルサインは安定していたため医師に助言を求めたもの。

・バイタルサインに異常がなければ、血圧低下、頻脈といったショックを示す徴候が現れてから指示要請する方がよい。

・数値に異常がなくても、末梢冷感、顔面蒼白といった目視、触診で確認できるショック徴候が現れているのであれば、一度ＭＣ医師に連絡して助言を得ることも考慮する。

・連絡を受ける医師は、現場の状況を直接見ることができないので、端的で想像しやすい連絡を心がけること。

1. 軽自動車と大型トラックの衝突事故、初期評価でショックと判断したが、バイタルサインではショックを示す数値はなく、容態も悪化する徴候は見られなかったが、ＭＣ医師によりショック輸液の指示を受け、かつ骨盤骨折の疑いがあったためサムスリングを使用した症例。

交差点での事故により軽自動車の運転手が負傷したもの。初期評価ショック状態、高リスク受傷機転、全身観察で骨盤骨折を疑いＬ＆Ｇ宣言する。

ＭＣ医師によりショック輸液の指示があったため実施するがうっ血及び血管走行視認できず未実施とした。

・初期評価でショックを判断しているのでショック輸液の判断は問題なし。

・サムスリング固定は実施してよいが、装着位置がずれている症例もあるので、適切な位置に固定すること。

1. 軽乗用車の単独事故の傷病者（助手席同乗者）で、バイタル測定結果はショックではないが、接触時に四肢の冷感及びと橈骨動脈が微弱であったため、ショック輸液を行った症例。

軽乗用車の単独事故により、運転手、助手席及び後部座席の同乗者の３名が負傷したもの。運転手は腹腔内出血疑い及び骨盤骨折疑い。

助手席の同乗者は意識レベルＪＣＳⅢ－１００、ショック状態、腹腔内出血疑い。後部座席の同乗者は歩行可能。トリアージ結果は赤２名、緑１名であった。

* + 救急隊の活動は問題なし。本症例のようにショック輸液を行う際は、バイタル数値のみではなく、ショック徴候を確認し総合的な判断で行うことが望ましい。

1. 声門上気道確保器具の抜去について。

エアリーク音が聞こえただけで抜去するのではなく、胸部挙上の確認と聴診などやれることをすべてやり、判断していくほうがいいのではないか。正しい器具の取り扱いを行い、気道確保をしっかり行っていくことが重要ではないか。

1. 脈ありＶＴと脈なしＶＴを繰り返したＣＰＡ症例。

　７０歳代の男性、乗用車を運転中に意識消失し対向車（トラック）と衝突、その後、停車中の車両に追突したもの。救急隊接触時、ショック状態、外傷はなし。乗用車から救出中に痙攣発作、車内収容後ＣＰＡ。初期波形で脈ありＶＴ、胸骨圧迫中断するとＣＰＡになるためＣＰＲ実施。その後、意識レベルＪＣＳⅠ－２となり協和中央病院へ収容、同医師が除細動実施し自治医科大学付属病院へ転送となる。

・活動内容については、プロトコール遵守しており問題なし。

・稀な症例である為、発表してもらった。

【精神科症例】

1. うつ病既往の２０歳代男性、仕事の準備をしていたところ左下肢のしびれを発症したもので、約５年前にも同症状があった。うつ病が傷病者の背景にあり、本症状との因果関係が否定できず病院選定に時間を要した症例。

　　　　　　　　　　（現場滞在時間４４分、医療機関照会６件、軽症）

・活動に問題なし。

・精神疾患で通院中の医療機関に内科医が在中していることもあるため、病院選定の際には今後も考慮すること。

1. ２０歳代男性が浴室で、塩素系漂白剤とアルカリ系洗剤を使用し、自損行為を行った症例。

　　　　　　　　　　　　（現場滞在時間２１分、医療機関照会１件、中等症）

・活動自体に問題はないが、二次災害の防止と除染活動を考慮し活動すべきである。

1. ～⑦にあっては問題ある症例なし。

【搬送困難症例】

（初診時重症以上で医療機関収容依頼4件以上または現場滞在30分以上）

1. ９０歳代男性、施設内で悪寒を訴えたもの。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（重症以上、現場滞在時間３５分）

・病院側の収容依頼の確認回答時間を短縮していただけるよう協力をお願いしたい。

1. ８０歳代男性、施設内でＣＰＡになったもので、小山市の花火大会の日に起こったＣＰＡ症例で、事前管制で５件収容不能だった症例。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（重症以上、医療機関照会６件）

・活動に問題なし。

1. ４０歳代男性、施設内でＣＰＡになったもので、小山市の花火大会の日に起こったＣＰＡ症例で、事前管制で５件収容不能だった症例。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（重症以上、医療機関照会６件）

・活動に問題なし。

1. ６０歳代男性、建物火災で出場するが、道路狭隘及び傷病者接触に時間を要したもので、接触時に気道熱傷が疑われた症例。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（重症以上、現場滞在時間３１分）

・活動に問題なし。

1. ４０歳代男性のＣＰＡ事案、事前管制で４件収容不能だった症例。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（重症以上、医療機関照会５件）

・活動に問題なし。

次回　令和元年９月３０日（月）１４時から